



発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

神学者カール・バルトは、その著書「和解論」で以下のように表している。「人間の過ちの克服と除去のために、また人間の救いのためにも、ご自身を与え、しかもご自身を犠牲にし、審判者である神ご自身を裁き罪の人間をご自身において殺させるといふ仕方である。人間の過ちに対する裁きを遂行し給うたのである。そのような極度の謙りにおいてそのような自己犠牲において、神は、人間の不義を除去し、新しい人間の義の恢復と樹立を遂行し給うた。人間に対して、殺すと共に生かし否定すると共に肯定し否認すると共に承認する判決を下し給うた。そして、そのことによって、破壊と廃棄によって脅かされてくる交わりを固持し恢復し給うたのである。すなわち、和解の業を、なしとげ給うたのである。」(井上良雄編「地上を旅する神の民」バルト「和解論」の教論より)

神と世との和解。「世は言によって成ったが、世は言を認めなかった」(ヨハネ11:10)その認めなかった世と神は和解された。わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。」と祈られた主の十字架によって、神は、ご自分を憎む世と和解された。これが、私たち福音信仰の根幹、十字架の和解の業に他ならない。おそらく、ここまではキリスト者であれば、誰一人否を唱える人はいないだろう。ところが、残念なことに、この和解の業によって新しく創造された(IIコリント5:17)私たち、キリスト者共同体である教会が、授けられた和解の奉仕(16)、そしてゆだねられた和解の

瞑想

神はキリストによって、世をご自分と和解させられたのです。IIコリント5:19

主幹牧師 榎本 恵

「社会活動家ではなく、伝道者になるんだ」。私は最近、日本の大きなプロテスタント教団のリーダーが、インタビューで答えたこの言葉に、ずっと引かかっている。おそらくこのリーダーは、長年「教会派」、「社会派」という色分けがされ、疲弊してしまった教会を、もう一度建て直さなくてはならないという使命感に燃え、教勢の拡大を目指し「伝道」という言葉を使われているのであろう。そして、教会の停滞の原因は、社会正義や平和問題に専ら目が奪われ、伝道し会員を増やす努力をしてこなかったことにあると結論づけられたのだらう。けれども教会とは、一体何のために存在するのだろうか。伝道とは何のために

解決し得ないと考えていたからである。この頃の私の姿はきつと活動家のそれに映ったことであらう。ところが、その沖繩の小さな島で、米軍基地と対峙し反戦運動をしていた阿波根昌鴻さんの「団結道場(小屋ではなく道場)」の壁一面に書かれている言葉に、その自分の愚かな傲慢さを打ち砕かれたのだ。「米軍に告ぐ。聖なる農民の忠告に聞け。さらば米国は永遠に栄え、汝らは生きのびん。剣をとるものは剣にて亡ぶ(聖書) 基地を持つ国は基地にて亡ぶ(歴史) 1955年5月 伊江島土地を守る会」。この時ほど、聖書の御言葉が力強く、響いてきたことはなかった。以来、私は「社会活動家と伝道者は決して矛盾するものではなく、社会活動家であり、伝道者であることこそが、キリストの和解の使者の務め(IIコリント5:20)なのだ」と確信している。友よ、和解の言葉、和解の奉仕は、決して教会の中だけにとどまるものではない。これは、伝道することと、社会活動とが一体となった、まさに和解させる任務なのだ。さあ、和解の言葉を携え、堂々とこの世へと遣わされていこうよ。

# 『シメオン瞑想の家』 取得のエピソード



常任運営委員  
(主に土地・建物関係のご奉仕)

青木 博

あれは今から6年前、恵牧師からヴォーリス建築の前田邸(旧佐藤邸)が売りに出るとの情報で金額がいくらぐらいになるか、私に査定してもらいたいというのが、はじまりでした。(私は地元で不動産業を営んでおります。三浦綾子先生の「いろいろば牧師物語」を通じ、アシラムと出合い、今常任運営委員をさせて頂いておりました。しかしその時は、その話がある方にもいつているとはつゆ知らず二者で競合となりました。出した査定金額は少し厳しめのものでしたので、



シメオン瞑想の家、入り口右の噴水跡? 水は? 探究くださる青木兄。

残念ながら相手の方に決まってしまったのです。保郎牧師の代から、ずっと祈り続けていた「旧前田邸」取得も、これで、ダメになったかと諦めかけていました。しかし暫くしたら買主がお亡くなりになり計画されていた事業も手つかずになり大切なヴォーリス建築が放置状態となってしまうのです。そこで恵牧師と相談の上

何度となく直接本人と面談交渉いたしました。しかし、話はなかなかうまくいきません。多くの人たちに協力をお願いしたものの、話は進まず、それから6年が経過してしまいました。その間『修道場』の横の狸屋敷と呼ばれる廃屋A邸の購入の話や、現修道場の建替計画など、様々な話が進みそうになりましたが、いざいざも頓挫していききました。ところが昨年修道場西側の方から600坪余の土地売却の話を受け、買う方向で常任運営委員会内部も固まってきたのです。しかし、最後にもう一度旧佐藤邸に話してみようと言うことになり、ヴォーリス学園辻友子先生に相談の上、本年3月に持主と辻先



ヨイショ コラショ! 大きな枕木を運んできました。どんな庭になるのでしょうか?

生同席のもと話し合いをし、アシラムセンターが十分な保存と維持に努め有効利用して頂くならば売却しても良いとの旨承ることになりました。時が動いたのです。それは、40年以上にわたる祈りに対する神様の答えでした。全て神様にゆだねて進めていきました。時は、コロナの中、不動産売買をするにも、また経済活動をするに

も、最も相応しくないような時でしたが、しかし神は生きておられます。みなさまの献金、教会債のおかげをもちまして、僅か20日余りで6400万円余りの資金調達が出来ました。これは奇跡としか言い様がありません。全ては神様に感謝です。この『シメオン瞑想の家』がアシラム運動の次なる大きな働きのきっかけ、力となりますように祈っています。

(甲西伝道所)



猛暑の中、外回り、下水工事他、家の中も着々と修理が進められています! 貴重な窓ガラス。修復も丁寧に、

## アナニアとサフィラ ②

(無教会 岡山キリスト集会京都大学在学中) 香西 信

香西師発行のマラナ・タより  
(第45回年頭アシュラム早天祈祷会での聖書講話に加筆)

信じた人々の群れは心も思いも一つにし、  
一人として持ち物を自分のものだと言うものはなく、  
すべてを共有していた。 (使徒言行録 4:32)



年頭アシュラム夕食後、  
自己紹介の時

### 2. 財産の共有

初代教会は様々な社会層からなる集団であったと言われてい  
ますから、当然のこと、その中には裕福なものがある一方で貧し  
いものたちもいました。けれども裕福な人たちが自分の財産を売って得たお金を共有の財産として生活し  
ていたため「一人も貧しい者がいなかった」と聖書は記しています。「土地や家を持っている人が皆、そ  
れを売っては代金を持ち寄り、使徒たちの足もとに置き、その金は必要に応じて、おのおのに分配された  
からである(4:34-35)使徒たちの足元に置くということは財産の所有権が使徒たち、すなわち初代教会  
の指導者のもの、すなわち教会全体の財産になったということの意味する表現でした。そして、信徒たち  
の行動の模範として使徒たちからバルナバ(「慰めの子」という意味)の例が記されています。

マラナ・タ 第65号 2020年2月より

## 天上の友を憶える日礼拝



“広野祈りの家”猪瀬姉  
を訪ねて…。一日も早く  
コロナが収束し、皆様方  
と集い祈りあわせる日が  
戻ってきますように!!

### 主の平和

新型コロナウイルス感染拡大が心配な中、「天上の友を憶える日」礼拝を無事  
開催することができ、感謝申し上げます。

アシュラムセンターではこれからも  
この天上の友となられた皆様方を  
憶え、祈り続けてまいります。

御遺族、御関係者そして、祈りを  
共にして下さったアシュラムの皆様  
に、主の豊かな慰めと励ましがあ  
りますように。

榎本 恵



お一人お一人の信仰の歩みを  
懐かしく思い起こし、力をいただきました。  
それは、これからも!

### 村瀬 俊夫師 御召天のお知らせ

8月18日91才(日本長老教会 蓮沼キリスト教会)

アシュラム常任運営委員を経て、各地  
アシュラムご奉仕など長年アシュラムの  
ため、祈り、お支え続け下さったこと、  
感謝いたします。師の信仰が継がれてい  
きますように…。



明石にアシュラムの友、古澤輝勝さんをお訪ねし  
ました。古澤さん96才。榎本和子さん、もうすぐ  
96才に。白髪は神さまから  
の祝福の冠! <るつ子記>

(共に信仰の道を歩んだ  
富美子夫人は1月に御召天)





## 瞬きの詩人

## 水野源三の世界 41

三浦綾子記念文学館特別研究員  
森下 辰衛

幼馴染 1976

花を栽培する  
農家に嫁いだ  
幼馴染  
ずっとずっと会っていない

だけどときどき  
お母さんにたくして  
届けてくれる  
色とりどりの  
季節の花

私の病む部屋に  
やさしく咲き匂う  
ききょうの花が  
幼い日のままの顔を  
幼い日のままの心を  
甦らす



花を栽培する農家に嫁いだ幼馴染。ずっとずっと会っていないその人は、既に、少なくとも日常生活の表面には、小学校時代の何物も残さない人生の段階に入っているでしょう。なのに、憶えていて、覚えてくれているのです。源三さんの境遇と、源三さんが花を見ては詩を書いたりしていることも、聴き知っているのです。

その人にとって源三さんは、小学校三年生の夏休みを境に、二学期からいきなりなくなった級友で、それまで特別に親しかったのではないかも知れません。でも、そこで止まった時間を、そのまま、問いとして、あるいは、心にとどめ続ける責任があることのようにして、受けとめて生き続けている心があるのです。

その人の源三さんに対する時間も止まったま

まなのでしょうか。ずっと会っていないからこそ、そのときの、そのまま変わらないものがあるという不思議があります。

だけどときどき お母さんにたくして  
届けてくれる 色とりどりの 季節の花

世界がどんなに色とりどりの花で満ちているか、季節がどんなに鮮やかにいのちの喜びを歌っているか、それを、全部見せてあげたいような思いでしょうか。学校を長く休んでいて、出て来ることができないお友だちに、あれも届けてあげたい、これも届けてあげたい。そんなふう思う友だちの心です。

「お母さんにたくして」というのは、源三さんの家の近くの実家のお母さんでしょう。〈お母さん〉はいつも長い時間の隔たりをつなぐ存在です。産んで育てた子どもたちの人生を、心痛めつつも、いつも見守り続ける存在だからです。

「やさしく咲き匂う ききょうの花」は、どんな匂いなのでしょう。その花は、華やかではないけれど、清々しく、幼い日のままの顔を、幼い日のままの心を甦らせる香りなのでしょう。

「幼い日のままの顔」。顔とは人格のことです。心とは、それが人の中にあることがそのまま奇跡であるような、最も尊いものです。その心が、ずっとずっと変わらない純度で、ききょうの花のように咲いて、病む友の部屋を訪ねて、絶望しそうな心に、やさしく慰めを語るように、咲き匂うのです。

そのやさしさの本質は、決して忘れないこと。ずっとずっと忘れないこと。そして寄り添うことでした。〈幼馴染〉という、はじめの愛にいつまでもとどまる心です。

花を栽培する農家に嫁いで、いのちを見守り美しく育て、咲かせる仕事をし続けてきたその人は、いのちと季節を決して忘れない人です。季節を決して忘れない花と同じように、季節を忘れない花を育てているその人も、ずっとずっと会ってなくても、ずっとずっと忘れない本物の〈幼馴染〉の愛の心で花を届けてくれる心の人です。

この幼馴染の真実さ。そこに、ほんのりと、神さまの心も見えてきます。

### 主幹牧師の2019年度の振り返りと2020年ビジョン(4)

#### 4) アンナ祈りの家と新修道場計画

最後に、私が、アシュラムセンターの主幹牧師となって以来、ずっと祈り続けている、「新修道場計画」について報告する。築50年近くになる建物は老朽化し、前回の台風でも屋根が破損した。皆様からのヨセフ基金と火災保険で、雨漏りの修繕は行うことができた。しかし、いよいよなんらかの決断をしなければならない時期であると思っている。同じ敷地内の旧牧師館には、91歳になる河村琢郎兄が住まわれている。当初より、神学生や被災者、道に迷っている若者たちを受け入れ、共にアシュラム生活を送る共同体として、アシュラムの修道の場を目指していくことを願い、来るものを拒まず、去るものを追わず、続けてきた。この間、幾人もの人たちが、私たちと生活を共にし、また信仰を共にしていくことができたことを、主に感謝している。

新たな宿泊施設として与えられた、「アンナ祈りの家」は、アシュラムセンターの集会や会議、またお客様の宿泊場所としての役割を順調に果たしている。しかし、あくまでも、それは短期の「ゲストハウス」である。長期に滞在し、アシュラム生活を送る生活の場としての機能は修道場にある。しかしながら、その機能を十全に果たしていくことを追求することは、生半可な覚悟では出来ない。そんな時、イスラエルの民が、バビロン捕囚から帰り、エルサレムの再建を行なっていった苦勞を思う。

「もっこを担ぐ力は弱り、土くれの山はまだ大きい。城壁の再建など、わたしたちにはでき

ません。」(ネヘミヤ4:4)

こんな嘆きの言葉が、私の口からも出てきそうになる。しかし、その時に、ネヘミヤの言葉が私を励ます。

「敵を恐れるな。偉大にして畏るべき主の御名を唱えて、兄弟のため、息子のため、娘のため、妻のため、家のために戦え。」(ネヘミヤ4:8)

どうか「新修道場計画」のために引き続きお祈りいただきたい。



藁に覆われて隠れていた門(文化財)が、姿を見せました!!(シメオン黙想の家にて)  
(作業するは、河村琢郎(康子の父)91才)

以上が、昨年度一年間を通してのアシュラムセンターの働きの報告である。こうして、一年を振り返るとき、まことに「神は真実な方」(Iコリント1:9)であることに、感動する。

毎年頭ごとに掲げてきた「主幹牧師のビジョン」であるが、振り返り見るとき、そこに人間の思いなどはるかに超えて働かれる、主のみ手を見るからだ。この年もまた、主は真実をもって、私たちを導いてくださった。この主に感謝し、心から賛美しよう。

#### あとがき

新型コロナウイルスの感染が、また広がってきている。秋から予定されているアシュラム集会も、また影響を受けるかもしれない。「新しい日常」という言葉をよく耳にするようになった。ただ恐れや不安に支配されるのではなく、「正しくおそれ」日常を送っていくことが、求められている。礼拝や集会が、中止になったり、縮小されたりしていく中で、私たちは、新しい方法を持って、礼拝し、祈りと分かち合いの時を持っていきたくと願っている。幸い、インターネットは、アシュラムの集会には、親和性があると思っている。若者のZOOM聖書教室も新たに始まった。この機会を、私たちの「新しい日常」への出発と捉え、前を向いて進んでいきたい。

(恵)

オンラインに変更もあり。  
ホームページ、電話等でご確認下さい。

9月の聖書教室など

【主な問い合わせ先】  
0748-33-4030  
アシュラムセンター

1(火)	オンライン聖書教室 (ZOOM AM10:30、PM7:30)	
4(金)	阪神ミニアシュラム (主恩教会 PM1:00)	
12(土)	聖書と学び会 (ZOOM PM8:00) (若者向) 毎月第2土	
14(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)	検討中
15(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)	
16(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)	
20(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝 (PM5:00)	
25(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)	
28(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:00)	
29(火)	東京聖書教室・オンライン AM10:30	
10/2(金)	阪神ミニアシュラム (主恩教会 PM1:00)	

9月のアシュラムなど

18(金)	第46回 新潟アシュラム	中止	0250-23-2697
19(土)	奉仕者 榎本恵師		吉澤昭男師

10月のアシュラム予定

7(火)	第8回 日光オーリーブの里アシュラム	0748-33-4030	
8(水)	奉仕者 榎本 恵師	アシュラムセンター	
9(金)	第21回 愛知一泊アシュラム	中止	0562-47-0528
10(土)	奉仕者 岩波久一師		溝口勝幸師
13(火)	第24回 埼玉一日アシュラム (上尾キリスト教会)	048-726-2208	
	奉仕者 岩波久一師		秋山信夫師
19(月)	第45回 京浜アシュラム (イエズス会霊性センター)	048-789-1425	
21(水)	奉仕者 山川 暁師		加々美 要師
22(木)	常任運営委員のための修道場アシュラム (アシュラムセンター・シメオン黙想の家)		
29(木)	第28回 盛岡・秋田アシュラム (癒しの宿 盛岡ロテム)	019-688-4228	
31(土)	奉仕者 榎本 恵師		角谷晋次師
30(金)	第25回 北陸・富山アシュラム (インテック大山研修センター)	0767-22-5142	
31(土)	奉仕者 加々美 要師		岩城輝雄兄

10月以降のアシュラム予定

11月19(木)~20(金)	第44回 阪神アシュラム
12月2(火)	第10回 合同平和祈禱会
12月12(土)	クリスマス合同聖書教室

みことば



日本基督教団 安来教会牧師  
山陰アシュラム推奨者  
遠藤 誠一

③求めなさい (2)

神の戒めは、生命をまず保ちなさいということですが、へびが誘惑したことばは、生命とは何の関係もないことを言っています。「あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」と言いました(創世記3:51)。

エデンの園で、善悪を知る木に対する神の御言は、生命に関することです。「それを取って食べると、きつと死ぬであらう」(創世記2:17)。

しかし、へびの言葉は、生命とは何の関係もないことを言いました。虚栄心と、人間の傲慢だけの偽りを言ったのです。私達はこの二つのメッセージのどちらを選んだらよいでしょうか。

聖書が教える大切なことは、全て生命に関する御言です。生命よりも大切なものはありません。生命をまず確保した後、この世のもの、つまり消えるものなどを求めても遅くはないのです。しかし、人は欲望の奴隷になり、求める順番を間違えてしまいます。このような求め方をしてしまうと、祈りの答えを受けることができなくなります。

なぜ、イエス様は弟子たちに、先ず、悪霊を追い出す権威を下されたでしょうか。それは、悪霊は殺人者だからです(ヨハネ8:44、ヘブル2:14)。殺人者をまず取り押さえてしまわなければ、幸せになることができません。ですから、悪霊を追い出すことは、力を誇示するためではなく、生命に関する問題なのです。

「あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、…彼は初めから、人殺しであって…彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ」(ヨハネ8:44)とイエス様が言われました。悪霊は偽り者ですが、イエス・キリストの光の前では、隠れたものが現されないものはありません。「そして、神の御前には、あらわでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである」(ヘブル4:13)との御言のように、悪霊はイエス様がおられないところでは欺くことができても、イエス様の前では、決して欺くことができません。

悪霊の目的は殺人です。偽りの目的も殺人です。ですから、私たちは神の御前で大きな力を受けますが、イエス様は、先ず悪霊を押さえつける権威を受けるようにされたのです。これは、生命が大切だからです。神は、「全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか」と言われます(マタイ16:26)。神は、私たちに何がまず必要であるかをご存知です(マタイ6:8)。

ですから、祈る時、欲望を先に求めてしまうと、初めから祈りの答えを求めるのではなく、自分の欲望の祈りを誇示しただけになってしまいます。

アブラハムは試みにあった時、イサクの命を求めませんでした。子の命よりも、さらに貴いものは、神の約束だからです。イサクは約束によって生まれた者なので(創世記17:19)、アブラハムは、むしろ神がその約束を守られることを信じたので従いました(創世記22:7~8)。(次号につづく)